

HFSP サイエンス・サミット 2025 サテライトイベント at 東北大学 講演会

日時：2025年10月1日（水）

場所：東北大学 青葉山新キャンパス
災害科学国際研究所(IRIDeS)

ハイブリッド開催：対面&オンライン

ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP）は、ライフサイエンス分野における基礎研究を国際的に支援する研究助成プログラムです。

ノーベル賞受賞者、HFSP中曽根賞受賞者と若手研究者・学生が一堂に会して議論し交流する機会を提供します。ぜひご参加ください！

参加費無料・参加登録はこちら →

【好評につき9/30まで申込期限延長】

※現在はオンライン参加のみ受け付けております。

プログラム

- 12:00 開場
- 12:30-12:35 開会挨拶 杉本 亜砂子 東北大学理事・副学長
- 12:35-13:25 ノーベル賞受賞者による講演
Martin Chalfie 博士 (2008ノーベル化学賞 受賞者)
Randy W. Schekman 博士 (2013ノーベル生理学・医学賞 受賞者)
- 13:25-13:45 HFSPならびにHFSP研究グラント、ポスドク・フェローシップの紹介
Pavel Kabat 国際HFSP機構事務局長
Almut Kelber 国際HFSP機構研究グラント部長
Barbara Pauly 国際HFSP機構フェローシップ部長
- 13:45-15:00 中曽根賞受賞者による講演
Franz-Ulrich Hartl 博士 (2022中曽根賞 受賞者)
Jacob Hanna 博士 (2025中曽根賞 受賞者)
Stephen Quake 博士 (2013中曽根賞 受賞者)
- 15:00-15:30 招待講演者からのメッセージ（パネルディスカッション）
司会 杉本 亜砂子 東北大学理事・副学長
- 15:30-15:40 閉会挨拶



<https://forms.gle/m1w99nJtKyWRm1EW8>

プログラムの詳細・会場へのアクセス等はこちら



<https://www.bureau.tohoku.ac.jp/k/enkyo/HFSP-SS2025/index.shtml>



東北大学
TOHOKU UNIVERSITY



文部科学省



経済産業省



国立研究開発法人
日本医療研究開発機構

HFSP サイエンス・サミット 2025 サテライトイベント at 東北大学 講演会

日時：2025年 **10月1日**（水）12:00 開場

場所：東北大学 青葉山新キャンパス 災害科学国際研究所(IRIDeS)

ハイブリッド開催：対面 & オンライン



【ノーベル賞受賞者による講演】



Dr. Martin Chalfie

University Professor, Columbia University

2008 Nobel Prize in Chemistry

Chalfie博士は生物学的マーカーとしての緑色蛍光タンパク質（GFP）の先駆的研究により、2008年ノーベル化学賞を受賞しました。現在は*線虫*における触覚神経細胞の発達と機能を研究しておられます。彼の研究は、生体系における遺伝子発現と細胞ダイナミクスの研究に革命をもたらしました。コロンビア大学生物科学部教授、発生生物学会会長などを歴任し、現在は全米アカデミーの人権委員会の委員長を務めるなど、科学と社会の両分野で活躍しておられます。



Dr. Randy W. Schekman

Professor, University of California, Berkeley

2013 Nobel Prize in Physiology or Medicine

Schekman博士は、細胞内の主要な輸送システムである小胞輸送を制御する機構に関する発見により、2013年のノーベル生理学・医学賞を受賞されました。博士の研究室では、真核細胞における膜集合と小胞輸送の分子記述について研究しています。

科学的業績に加えて、博士は科学出版における改革を強く訴えておられ、eLife誌の編集長も務められました。米国科学アカデミーの会員であり、米国細胞生物学会の元会長も務められました。厳密な分子生物学とオープンで公平な科学システムのビジョンを橋渡しする仕事をされています。

【中曽根賞受賞者による講演】



Dr. Franz-Ulrich Hartl

Director, Max Planck Institute of Biochemistry

2011 HFSP Award, 2022 Nakasone Award

Hartl博士の研究テーマは、タンパク質のフォールディングにおける分子シャペロンの重要な役割と、神経変性疾患などタンパク質の凝集に関連する疾患の基礎となるメカニズムです。

博士は、ライフサイエンスにおけるブレークスルー賞やラスカー賞など、ライフサイエンスにおける権威ある賞を受賞されています。博士の研究は、複雑な生物学的問題に取り組む上での基礎的、発見主導型研究の価値を明らかにしています。



Dr. Jacob Hanna

Weizmann Institute of Science

2015 HFSP Award, 2025 Nakasone Award

Hanna博士の学際的研究グループは、胚性幹細胞生物学の理解、細胞の初期化（人工多能性幹細胞）プロセス、初期胚発生のモデリングに重点を置き、幹細胞を用いたヒト疾患プラットフォームの開発を目指しています。

再生医療におけるイノベーションを与える研究は広く知られており、『ネイチャー』誌や『サイエンス』誌での出版、プロスペクト誌の「トップ・シンカー 2021」やTIME誌の「イノベーション・オブ・ザ・イヤー 2023」などに選ばれておられます。



Dr. Stephen Quake

Professor, Stanford University

2013 Nakasone Award

Quake博士の関心は物理学、生物学、バイオテクノロジーの交差点にあります。博士は、DNA配列決定技術の進歩や、シングルセルゲノミクスと診断のためのマイクロ流体自動化など、生物学的測定への新たなアプローチ開発のバイオニアです。

2013年にHFSP中曽根賞は博士の生物学的システムの測定・理解方法を変革した学際的なイノベーションに対して授与されました。博士はチャン・ザッカーバーグ・バイオハブの共同プレジデントであり、米国科学アカデミーのメンバーであり、エンジニアリングとライフサイエンスの融合におけるリーダーであり、博士の研究は、発見研究がいかに基礎的理解と技術的進歩の両方を促進できるかを示しています。